

多-lingual ～地域がつながり、世界へつながる～

課外活動

地域活動

国際交流

代表者：人文学部人文コミュニケーション学科 1年 佐々木 春菜

連携先

グローバルフェスタいばらき実行委員事務局

顧問教員

清水 恵美子（社会連携センター・准教授）

参加者

- ・ 佐々木春菜（人文学部人文コミュニケーション学科 1年）
- ・ 高矢 綾子（人文学部人文コミュニケーション学科 1年）
- ・ 丹治綾弥乃（人文学部人文コミュニケーション学科 1年）
- ・ 岩澤 英樹（人文学部社会学科 1年）
- ・ 孫 浩（人文学部社会学科 2年）
- ・ 劉 俊智（人文学部社会学科 2年）
- ・ 小松崎流緋（人文学部社会学科 1年）
- ・ 菊池 純（人文学部社会学科 1年）
- ・ 小栗 和花（人文学部人文コミュニケーション学科 1年）
- ・ 平井 敦（工学部情報工学科 1年）

プロジェクトの概要

●プロジェクトの発足について

平成27年度より開講された「茨城学」の初回授業は、学生地域参画プロジェクトを行った先輩が講師となって、本プロジェクトについて講義するという内容であった。それを受講し、関心を持った1年生が主体となり、平成28年4月に本プロジェクトは結成された。

●プロジェクト名について

多国籍・多言語の『多』と、bilingualやtrilingualのlingualを組み合わせた造語になっている。

●プロジェクトの目的と内容

主な活動は学生や外国人、地域の方など、国籍の垣根を越えていろいろな人が気軽に集まり、交流を楽しめる「多国籍カフェ」の開催である。

多-lingualの活動の大きなテーマは「出会い」である。活動の中で、参加してくれた人に、人や国との新しい出会い、またそこから生まれる新しい人とのつながり、興味、価値観の共有を提供することが目的である。出会いは私たちが何かを始めるきっかけにもなり、自分の生き方を変えるものでもある。また、出会いから生まれた人と人とのヨコのつながりは地域愛をも育むとも考えたからである。

「多国籍カフェ」は水戸の街にあるVILLAGE310というカフェをお借りして開催した。このVILLAGE310さんは、「飲食」と「読書」を中心に、まちなかと地域コミュニティを結ぶカフェとなっている。

●プロジェクトの活動報告

①「第1回多国籍カフェ」

2016年7月23日(土) 15:30~18:00

@VILLAGE310

参加者: 18名

(プロジェクトメンバーを除く)



第1回多国籍カフェの風景

参加者やプロジェクトメンバーが自由に飲食をしながら、交流を楽しんだ。留学生や水戸に住んでいるALTの先生、留学から帰ってきた茨大の先輩なども参加していただいた。



「第1回多国籍カフェ」の集合写真

②「第2回多国籍カフェ

～Halloween Party～」

2016年10月31日(月) 18:00~20:00

参加人数: 32名

(プロジェクトメンバーを除く)



「第2回多国籍カフェ
～Halloween Party～」の風景



ゲーム企画の風景

参加者もメンバーも、それぞれ自由に仮装をしてハロウィンを楽しんだ。また、参加者同士が交流を図りやすいように、ゲームなどの企画も取り入れた。



「第2回多国籍カフェ
～Halloween Party～」の集合写真

●広告・メディア・取材掲載



多-lingual作成のチラシ



VILLAGE310さん作成のチラシ

これらのチラシは、大学構内、水戸の街、水戸駅周辺で配布した。特に外国人の方に知ってもらうために、外国語で話しかけて説明する活動も行った。



10月29日(土) 12:00~12:15
茨城放送ラジオ
「青春インタビューーピングなう！」出演



茨城新聞2017年1月9日付 1面

プロジェクトの成果報告

●プロジェクトの成果

- 多国籍カフェでは、飲食をしながら初対面の参加者やプロジェクトメンバーが自由に交流を楽しめた。
- いろいろな国の人が集まったり、違う学部、学年の人が集まったりすることで、普段の生活では出会えないような人たちと会話することができて、参加者自身の視野が広がることにつながった。
- 外国人と気軽に会話ができ、英語や多言語を抵抗なく話せるようになる機会となった。
- テーマだった国籍を問わない人と人との新たな出会い、異文化との出会い、世界との出会いなど、多くの出会いが生まれることができた。

●外部からの評価

- ◆「多国籍カフェに参加したことで、今まで知らなかった人たちと出会えたり、外国の方と英語で交流できたり、箱の中身は何でしょうゲームなど、よく練られた企画があったりして、とてもよかった。SNSで情報発信してくれたのが分かりやすかった。参加費が安かったから、参加しやすかった。雰囲気がとてもよかったので交流しやすかった。」

(茨城大学 理学部 1年)

◆「シンプルで、とてもいいイベントだと思いました。私はこういうイベントを待っていました。次の機会にも絶対参加したいです。」

(茨城大学 人文学部2年)

◆「今日、僕は皆さんとすごく楽しい時間を過ごしてきました。佐々木さんに会えて嬉しかったです。今日の行事に招待してくれて、本当にありがとうございました。」

(水戸に住んでいるALTの先生)

◆「英語での、プロジェクトや多国籍カフェについての説明がとても分かりやすくてよかった。」

(水戸に住んでいるALTの先生)

●今後の展望

本プロジェクトは1年生が主体となり、企画運営を行ってきた。大学生活にまだ慣れていないころから活動を開始したため、大変なことも多かったが、大学の授業や生活では経験できないことを多く経験することができた。大学生ならではのアイデアを形にできたり、大学生だからこそ地域のためにできることが見つかったり、自分たちの可能性に気付くことができた。

また、活動を通して「出会い」の大切さを強く実感した。普段の生活から一歩出て何かに挑戦するほど、新しい出会いがあり、影響をうけて私たちの人生は変わっていく。私事ではあるが、プロジェクトを通して出会った人たちのおかげで、2月からのカナダへの留学を決意することができた。これからも、大学の外の地域や世界に積極的に出て、新しい出会いを大切にしていきたい。

本プロジェクトは1年で終了する予定ではあるが、活動を通してできたつながりを何かの活動につなげていきたい。

またメンバーが学んだことや感じたこと、活動について新1年生にも伝える機会をつくり、彼らがよりいい経験をできるように、地

域に出て活動するきっかけを与えられるように手助けすることも積極的に行っていきたい。